

北海道映像コンテスト 番組部門(放送)にて最優秀賞受賞にあたり

撮影部 制作撮影グループ 上野嘉之

数々の力作の中、このような賞がいただけて本当に光栄に思います。
現場に出て、ものづくりと格闘している私たちにとって本当に有難く励みになります。

受賞した「17歳の先生 ～子どもの貧困を越えて～」という番組は、uhb 北海道文化放送で放送された1時間のドキュメンタリー番組です。

近年、貧困をテーマにしたテレビ番組や書籍が数多く出ています。
とてもいいことだと思います。

私たちの番組は、北海道における子どもの貧困の実態と貧困が生む教育格差を取り上げたものです。

本当の貧困、最も厳しい貧困とはなんだろうか…？

それを伝えることにどんな意味があるのか…

ディレクターの熱い思いと迷いの中、番組取材は進んでいったように思います。

子どもがこの社会で誇りを持って生きていくために何が必要か。

それが欠けていることが子どもにとってどれほど苦しいか。

そうした子どもたちの声を大切に届けようと思った番組です。

テレビドキュメンタリーというものは合理的、効率的ということの真逆にあります。

視聴率を求めることは難しいです。

しかし、伝わり方は強いです。時に話題性もあります。

東海テレビ制作の人生フルーツというドキュメンタリー映画が現在、シアターキノで異例のヒットを記録しています。

(2017年6月末現在… 私は2回観ました。素晴らしい作品です。)

ドキュメンタリーの可能性はやり方によってはまだまだあると思います。

私は年齢的に40半ばを迎えます。アナログで育てられた世代です。

諸先輩からはものづくりにおいて、真剣にバカをやり、あえて面倒を楽しみ、きちんと責任を請け負えと教えられてきました。

テレビ番組というものづくりにおいてとても大切なことだと思っています。

テレビドキュメンタリーを通して、今後、若きものづくり世代にそんな部分も伝えていけたらと思っています。